

令和元年9月本会議 議事録（令和元年9月12日）

質疑・答弁者	質疑・答弁内容
<p>公明党 村上直樹議員</p>	<p>多胎児支援について</p> <p>急速に少子化が進行している中で、双子や三つ子と言った多胎児の出生率が増加傾向にあるようです。多胎児が増加する背景には、晩婚化による高齢出産や、不妊治療の一般的な普及があるとされておりまして。</p> <p>ところが、多胎児育児の情報や問題はあまりクローズアップされていないことから、広く周知されている児童手当、医療費助成や保育料の無償化などの情報とは異なり、双子・三つ子を生み育てる親たちが必要とする情報は、十分に周知されていないのが現状のようです。双子、三つ子を育てる家庭は精神的・経済的不安がつきものです。子供が小さいうちからお金がかかり、成長していくたびに倍の金額を払っていかねばなりません。</p> <p>こうした中、本市においては、各区において多胎児教室を実施するなどの支援を行っていると同様に、NPOの実施する「子育て環境ランキング」で8年連続政令市1位に輝いた都市として、今後、さらに支援の充実を図っていくべきと考えます。</p> <p>双子や三つ子など多胎児を安心して産み、育てられる環境づくりを求めて数点お伺いします。</p> <p>一点目に、本市に於けるここ数年の多胎児の出生数や出生率など、多胎出生の現状についてお伺いします。また、多胎での妊娠、出産、育児にかかわる課題についてどのように認識しているか、あわせてお示しください。</p> <p>二点目に、本市における多胎児支援の現状はどのようになっているのかお聞かせください。</p>
<p>北九州市長</p>	<p>まず、多胎児支援についてであります。</p> <p>近年、核家族化、地域の結びつきの希薄化等に伴い、家庭や地域における養育機能が低下し、子育て家庭が、周囲からの支援を受けにくい状況にあると認識しています。</p> <p>なかでも、多胎児の親は、孤立しやすく、育児に不安を抱えがちであるとも言われております。</p> <p>平成29年の本市の多胎児の出生数は、151人であり、出生数全体に占める割合は2.1%で、国の平均よりも高い状況であります。</p> <p>多胎児の育児につきましては、早産となりやすく、出生児が低体重で長期入院となりやすい、授乳やおむつ替えなど、子どもの数に応じた回数が必要となる、交互に夜泣きがある場合は、睡眠不足の状況が続くことになり、身体的、精神的な負担が大きくなる、周囲に同じような経験をした人が少なく、情報の入手が困難である、こうした課題があるといわれます。</p> <p>本市は、これまでも、多胎を「養育支援の必要な要因」として捉え、区役所での妊娠届出時などに把握して、妊娠中から必要に応じ、保健師の専門的支援に加え、ヘルパーを派遣し、家事、育児の支援を行う「養育支援訪問事業」を行っております。</p>

	<p>また、区役所、市民センター等において、多胎の妊婦、育児中の家族を対象に、多胎児の子育て経験者からの助言や情報交換などの交流会を開催しております。</p> <p>さらに、民間団体も、多胎妊娠中・出産後の両親が交流できる「パパママ両親教室」を年2回実施しております。本市は、このような団体に対し、後援を行うとともに、多胎児を妊娠・育児中の保護者等に対し、両親教室の開催などについて、情報提供を行っております。</p> <p>今後とも、多胎児を安心して子育てできる環境づくりに向けて、民間団体等からも意見を聞きながら、妊娠期から子育て期までの時期に応じた、効果的な支援策を検討いたします。</p>
<p>公明党 村上直樹議員</p>	<p>多胎児支援につきまして、市長ありがとうございました。様々な課題を教えてくださいましたが、今回この件を取り上げるにあたって、要望をいただいた助産師として務めながら、4人の子どもを育てる、ベテランのママさんです。そのうち2人が双子です。今日傍聴に来られています。そして、我が会の中島議員も、双子を育てたベテランのパパさんですが、中島議員からも、先ほどの方からも、色々なことを聞かせていただいて、その勉強した内容をご紹介します。</p> <p>まず、妊娠時ですが、一般的なことに関する書籍や雑誌は多くありますが、多胎での妊娠や育児に関するものはあまり出回っていないということらしいので、情報があまりにも少なすぎる。</p> <p>さらに、周囲の方の多胎に関する理解も非常に乏しいということだそうです。</p> <p>それから、次に出産時ですが、単体児に比べて大きなリスクがあると先ほど市長も言われましたが、多胎児の6割弱が早産児で、7割強が低出生体重児という調査が出ているらしいです。単体児に比べて抵抗力も弱い、病気にもかかりやすい、発育も遅い傾向にあると言われているそうです。</p> <p>また、母親の年齢が、不妊治療の影響で単体児と比べたら、高い傾向にあるということから、母親の身体的・精神的負担もとても大きくて、実際に「多胎児を出産された経験のある方にしか分からない」ということも非常に多いと言われています。</p> <p>そして、出産後ですが、中島議員も「地獄のようでした」と言われてましたが、休む間もなく子育てが始まり、1日24時間一人泣けばもう一人もつられて泣く。授乳も3時間おきだとすれば双子なら1日16回、三つ子なら24回になる。洗濯物や哺乳瓶などの洗い物も2倍3倍となる。特に3歳までの多胎児の子育ては壮絶で、睡眠時間は削られ、体を休める時間もなく、いつも睡眠不足の状態、まさに心身ともに疲れ果てている状態になる。そのような中、育児について相談したいと思っても、誰に聞いたらいいかわからず、不安や孤独感が深まり、閉じこもってしまいそうになるということです。</p> <p>外出するにも勇気と、体力が非常に必要になり、平日はお父さんがいないから、お母さん一人で双子用のベビーカーを押して外出することになります。車の場合は、チャイルドシートの装着、また双子用のベビーカーの出し入れ</p>

	<p>など負担が大きく、ミルクやおむつ替えなど何をするにしても2人分、3人分の荷物を持って出かけなければならない。外出すること自体億劫になってしまう。また経済的にも負担が大きい。医療費の負担は、今はなくなっていますが、おむつ代やミルク代、育児支援のサービス利用料など単体児に比べて何倍もの金銭的負担が重くのしかかってくると、概ねこのような話を聞かせていただきました。</p> <p>市長から、様々な北九州市の支援を聞かせていただきましたが、母子健康手帳を交付するときに、北九州がやられているサービス、多胎児教室とかそういうものを母子健康手帳を発行する時点で紹介するような仕組みはできていますか。</p>
子ども家庭局長	<p>本市では、母子健康手帳の交付時に多胎と把握した場合は、区役所などが実施しております多胎児の交流会等の事業のご案内をするなど、妊娠期から多胎育児の経験者とつながるよう、支援をさせていただいています。</p>
公明党 村上直樹議員	<p>ありがとうございました。</p> <p>情報の提供はしていただけるということですね。もしできればお願いをしたいのですが、「のびのび赤ちゃん訪問事業」をやられているかと思いますが、助産師や保健師が訪問するときに、例えば多胎の出産を経験された先輩、そういう方とつながっていくということも、不安を抱えているお母さん方の、大変心強い支えになると思いますが、このようなことはどう思われますか。</p>
子ども家庭局長	<p>「のびのび赤ちゃん訪問事業、全戸訪問事業」でございますが、保健師が訪問するときに多胎育児の経験者を同席させる取り組みにつきましては、既にいくつかの都市で実施されていることは承知しています。</p> <p>妊産婦の負担感や孤立感の軽減を図るために、多胎育児の経験者につながる仕組みづくりは重要であると考えています。</p> <p>取り組みを進めていくには、担い手の確保などの課題はありますが、多胎育児を支援する民間団体の方のご意見や他都市の事例を参考にしながら検討していきたいという風に考えています。</p>
公明党 村上直樹議員	<p>ありがとうございました。子育てランキング1位をいただいた本市は、しっかりとまたさらに充実させていただければと思います。</p>